

令和元年度 第1回旭川市社会教育委員会議の開催 結果

日 時	令和元年7月2日(火) 午後4時30分～午後6時30分
場 所	旭川市中央図書館 2階 視聴覚室
出席者	荒木関委員, 大島委員, 泉委員, 金子委員, 神林委員, 小林委員, 清水委員, 鈴木委員, 中村委員, 平出委員, 村田委員 11名
事務局	教育長ほか13名
公開・非公開の別	公開
傍聴者	0名
会議資料	平成31年度教育行政方針 社会教育部予算説明資料 社会教育部事業説明資料 旭川市社会教育基本計画 平成30年度点検・評価 旭川市社会教育基本計画 平成30年度 事務事業及び施策評価シート

令和元年度 第1回旭川市社会教育委員会議 次第

1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価について

質問・応答等 以下議事録のとおり

4 その他

5 閉会

■旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価について

議長	進め方について、資料6旭川市社会教育基本計画 平成30年度点検・評価を使って進めていくが、最初に、1から2ページについて事務局の担当から説明していただく。ここで一旦区切り、皆様から御質問があればいただいて、そのあとは、計画が基本目標5つからできているので、基本目標ごとに区切ってやっていく。そして最後にざっと振り返って、終了したいと思っている。では、まずは事務局から、総括的に点検・評価について説明をお願いします。
事務局	(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価について資料を基に説明)
議長	点検・評価について、今説明をしていただいたが、皆様から何かあるか。何のために今日はここに座っていて、何のために意見を言うんだという、私たちがここにいる軸を確認しておきたい。一つは、点検・評価というのは、法に基づいて行う行政の内部評価であり、それに対して市民目線から何か意見があれば、私たちが話をすることによって、行政の点検・評価の中身をより充実させるということである。もう一つは、この計画は10年スパンであり、令和3年で中間見直しになるが、中間見直しに向けて毎年の私たちの話で採用していただける部分については、行政のほうで今後の計画に反映してもらおうということ。要するに、今後の社会教育行政の充実に資すること、この2つのために、この場に私たちがいて意見や質問をしていただく。そんなところを軸にしながらこれから皆さんから御発言いただきたいと思っている。それでは早速中身に入っていきたいと思うので、基本目標1について事務局から説明願う。
事務局	(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価 基本目標1について資料を基に説明)
議長	目標があって、それに対して成果指標が4つあるということである。まず、基本施策1-1多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供について、主な取組の1つ目、現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進ということで、3つ項立てがある。そして主な取組の2つ目、ライフステージに応じた学習機会の充実ということで、3つ。そして、主な取組の3つ目、学習機会の選択を支援する情報提供の充実ということで2つ。次に、基本施策1-2子育てをする家庭の教育力向上について、主な取組の1つ目、親や保護者の育ちを支援する取組の充実ということで、2つ。主な取組の2つ目、親や保護者を孤立させない環境の整備ということで、2つ。最後に全体として、今後の課題と改善に向けた方向性がまとまっている。こういうようなことで、基本目標1については10ページまでである。どこからでも結構だが基本目標1についていかがか。
委員	30年度の目標値という数字があるが、この数字の積算根拠は何か。
事務局	資料でお配りしている社会教育基本計画で成果指標をそもそも定めていて、そこが根拠となっている。
議長	平成28年2月に策定した社会教育基本計画の中に、例えば、基本目標の成果指標1だと、社会教育課での目標値が平成26年度は3,285人、平成33年度では4,100人、平成39年度では4,400人というふうに記載している。資料7の事務事業及び施策評価シートの中に毎年の数字が載っているのだったか。
事務局	施策評価シートの中には載っているものと載っていないものがある。
委員	もともとの計画があって、最終年度である平成39年度の目標値があって、そこに段階的に近づけていくという考え方で良いか。
事務局	はい。
委員	あくまでも12年目に当たる平成39年度の目標値が最終的な目標とすべき数字であるということか。

議長	<p>そうであるが、私は是非平成33年、令和3年の中間見直しのときにこの数値は少し考えたらいいと思っている。実態と大きな差があるものがあるので、是非見直しは進めていったら良いのではないかと考えているが、それは意見である。</p> <p>ほかに何か質問や意見はあるか。</p> <p>私のほうから1点、9ページ、1-1-2ライフステージに応じた学習機会の充実の1番最初の部分について、随分と継続して、力を入れて、生涯学習フェアを進めている感じがする。ただ、今後の方向性としては、イベントの認知度がまだ低いとか、来場日に偏りがあるとか、生涯学習フェア全体としてはインパクトのあるものではあるが、認知度が低いということもひょっとしたらあるかもしれないが、やはりこれも未来永劫やっているわけにはいかないの、今後のことについても考えていかなければいけないと感じている。今は青少年や子どもを中心として事業を組み立てるという進め方をしており、私はどこかに焦点化しながらこの事業を進めるということ自体はとてもいいことだと思う。社会教育は、青少年関係の団体の育成も大切な取組の一つであるので、今後も青少年団体との連携や協力を追求しながら、やっぱり数的にはもう十分達成しているの、どちらかというと、何人参加したという数よりも質の面で考えていったほうがいかなと思っていた。参考になるかわからないが、私の一つ意見としてお話をさせていただいたので、よろしく願います。</p>
社会教育課長	<p>ただいま議長から言われたとおり生涯学習フェアは、成果の発表の場を提供するとか、自ら学ぶ機会のきっかけになるような場を提供するといったことで、もう10数年にわたりやっているわけだが、やはりこれから人口が減ってきて、行政がしていかなければならないことは何かということで、焦点を絞っていかねばならないと思っている。そういう意味で、ある程度こちらのほうでも、今までどおりやっていけばいいということではなくて、少しずつ目標を明確にしながら、量より質という形で捉まえて今後も実施していきたい。</p>
議長	<p>何か皆様から、基本目標1について、御質疑または御意見はないか。</p> <p>それでは、基本目標2に進みたいと思う。それでは事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価 基本目標2について資料を基に説明)</p>
議長	<p>基本目標2について御意見をいただきたいと思うが、皆さんいかがか。</p> <p>それでは私のほうから、11ページ成果指標1の米印のところだが、「彫刻美術館は、計画策定時に本館休館中のため、ステーションギャラリーの入館者数。」とある。施策評価シート52ページの目標目安が30年度は10,968人、そして実績は10,909人。これがステーションギャラリーの利用者数という把握でいいと思う。それで、次の「平成29年度の入館者数のうち市民ギャラリー入場者数6,394名」、これは一体どこにどういうふうにつながっているか教えていただきたい。</p>
社会教育課長	<p>非常にわかりづらい表現だったと思うが、平成28年度までは西武にあった市民ギャラリーが西武閉店に伴いなくなり、一時的にステーションギャラリーの中で市民ギャラリーを開設していた時期があった。そのときには、市民ギャラリーの来館者数をカウントしていたので、ステーションギャラリーの中に開設した市民ギャラリーに来られた方が6,394人という内訳になっている。</p>
社会教育部長	<p>ステーションギャラリーの中に市民ギャラリーが3カ月間間借りしており、その期間の数字が6,000何某で、市民ギャラリーをやっていない、いわゆる純粋なステーションギャラリーのときは、期間が大体9カ月で、7,000何某。それで合わせて1万3,000何某人ということである。</p>
議長	<p>平成29年度の13,560人というのは、6,394人が入ってるということか。</p>
社会教育課長	<p>はい。</p>
議長	<p>では、平成30年度の10,909人、これはもう市民ギャラリーはないので、ステーションギャラリーだけか。</p>
社会教育課長	<p>そのとおりである。</p>

文化振興課長	<p>施策評価シートの48ページに市民ギャラリーの経過について書かれている。西武旭川店の10階に市民ギャラリーという場所があったが西武の閉店に伴い閉鎖になり、それに替わるものが欲しいという色んな要望があったので、市民文化会館の展示室で臨時的に開設したり、彫刻美術館ステーションギャラリーでも市民ギャラリーとして一時開設したり、そして昨年8月に上川倉庫の中に市民ギャラリーが正式にできたという形である。また、52ページに、彫刻美術館とステーションギャラリーの内容実績ということで、企画展の内容などが載っており、いすの展覧会なども行っている。ステーションギャラリーは彫刻美術館の分館であるが、彫刻に限定しない形でやっている経過もあり、また、ここは無料である。そういう意味で1万人を超えているが、本体の彫刻美術館はその半分も行ってないので、その辺りが私どもとしては課題であると捉えている。</p>
議長	<p>公民館事業であるが、成果指標3にある地域の特色を生かした事業というのは、地域再発見事業、56事業88回で参加者数が2,105人のことだと思うが、どういう事業か。</p>
公民館事業課長	<p>主にシニア大学と百寿大学というところで、地域再発見に関する市民講座等を開設しており、シニア大学大学院では「我が街旭川」というカリキュラムを実施している事業である。この数値が伸び悩んでいるのは、入学者数が減少傾向にあり、事業の展開もなかなかそれに追いついて行かないのが現状である。今後は、魅力あるカリキュラムや、参加しやすい環境づくりをしながら入学者等の人数を増やしていきたいと考えている。</p>
議長	<p>例えば平成29年度1,649人、右肩上がりで、実績値の比較は向上である。平成30年度も目標値327人で、実績2,105人。そういう点では去年から見ても増えているということであるが、ちょっと中身がわからない。</p>
公民館事業課長	<p>真逆なことを言ったように聞こえるが、実態としてはシニア大学はそういう形になっているが、実は平成28年度からカリキュラムの変更を行っており、その変更の中には、先ほど言った、我が街旭川だとか、まちの再発見事業など、そういうカリキュラムを組んでいるので、要するに生徒数、受講者数が一見増えているということで、この数字は伸びていると御理解いただきたい。</p>
議長	<p>ということは、良いことなのではないか。</p>
公民館事業課長	<p>成果として、人数的には上がっていると思うが、ただ、受講される方が近年高齢化しており、なかなかそういうカリキュラムが、その方々になじむかどうかということを検証していかなければならない。例えば、調べ学習の後で発表会を予定しているが、発表会の場面は御高齢の方たちは苦手らしくて、それでなかなかそういうのに参加するのは嫌だという方もいる。そういう意味もあって、入学者数の減少、特に大学院に進む方の数が減る傾向にあり、それも一つの課題かなと思っている。</p>
議長	<p>そういう苦しみもあるんだということが記載されると良い。何かこれ全体を見てみたら、非常に調子良くいっているという感じである。中身は分かるが、地域の特色を生かしたということで、どんな特色を生かした事業をしているのかという部分を知りたい。</p>
公民館事業課長	<p>例えば、旭川に由来している醤油工場や昔あった路面電車などについて調べ学習をしながら、郷土の特色を含めて学習をして、発表会を通じて情報発信をしている。</p>
議長	<p>分かった。色々なところとの関連で、これはかなり面白い事業を展開できると思うので、シニア大学や百寿大学だけでなく、目線としては、取り組むことができるものがあるのではなかと思ってお伺いした。 皆さんはいかがか。何かないか。</p>
委員	<p>施策評価シートの50ページ、文化会館について、今後の課題と改善に向けた方向性ということで、ホール利用率がわずかに減っているとか、利用者ニーズの把握とか環境整備の方法を検討していくとか、そのように課題として書かれているが、これは昨年度までの評価である。私は、今年度のことについてであるが、文化会館の資料室を利用した文団協の芸術祭の展示、ここについては抜本的に変わっていると思う。文化会館にいる市のスタッフの方々が本当に協力してくださった。私たちは主力が80歳代なので、天井のレールや下がっているピアノ線についていつも困っていたが、文化会館のスタッフの方が、事前に天井にフックを入れて、線を下ろしてくれたのである。みんな驚き感動した。使いやすい文化会館ということで考えていたので、今後とも、31年度の評価になったときに喜ばしい言葉や数字がここに並んでいることを私たちは願っている。 また、市民目線から見ると、人間が天井に脚立を使って接近していくよりも、天井のレールが人間のほうに自動で降りてくるような設備があっても良いのではないかと思う。どうして市の大事な施設なのにそういう設備がないのかと、そんな感想を漏らしていた。皆喜んでいたので、さらに良い方向で予算化とか色々あったときにはそのようにお考えいただけましたら嬉しいと言っていたので、お伝えさせていただく。</p>

文化ホール担当課長	今お話あったように、ホールはあくまでも使っていただいて何ぼなので、そこを使っていたりの方の声に耳を傾けながらできることをやっていきたいと思っている。特に文化会館は建ててから45年経っているの、構造的にも古いし、我々が努力しても、お金をかけてもなかなか上手くいかないようなことも多々ある。そんな中で、色々工夫してやっていきたいと思うし、お声をいただいた部分についてなるべくそれを反映できるように形でもこれから頑張っていきたいと思っているので、お気付きの部分があれば何でも言っていたいただければと思っている。
議長	主な取組2-1-2の3、市長部局との積極的な連携による学習機会の提供ということで、現在、青少年の学校外活動の行政窓口が子育て支援部のほうに行っている。それで、子育て支援部と教育委員会がどのような連携協力体制になっているのか、その辺を教えてくださいたいと思うが、いかがか。
社会教育課長	社会教育課のほうで、学習プログラムメニューという冊子を作っており、旭川市家庭教育支援プロジェクトということで、事務局は社会教育課であるが、子育て支援部とも色々協力しながら、子育てに関して色々悩みを持っている保護者の方や、健康、福祉、あるいは環境とかごみとか、そういったことで悩んでいる、あるいは講座を聞いてみたいとか、色々相談に乗ってほしいとかそういった方々に対して、出前講座もやっているということで、こういう冊子を公民館や子育て関係施設に配布するという事業をやっている。
議長	子どもたちの学校外での活動は、教育委員会と市長部局の子育て支援部がタッグを組むと、お互いにすみ分けよりは効果が上がってくるのではないかなと思う。学校外の活動で子どもたちを育てていくという点では、事業含めて連携していったら良いのではないかなと思うので、参考にしていただければと思う。 それから、今後の課題と改善に向けた方向性の公民館の関係、現在、西神楽と春光台公民館の2館が指定管理者制度による管理運営になっているということである。今後の見通しとして、指定管理者制度について、導入拡大に向けて進めていきたいということだが、各公民館の地域での指定管理者の受け手がなく、指定管理者制度の導入は進まないのが現状である。今後、社会教育部として、具体的に公民館について、指定管理者制度をどんなイメージで進めていきたいと考えているのか。現在考えている範囲で、もしも教えていただければお願いしたい。
公民館事業課長	現在、春光台、西神楽公民館が指定管理者制度をとっている。公民館は、主に住民団体が受け皿となって指定管理者を委託して実施している。今後、ほかの公民館で指定管理を進めていくということになると、同じように、それぞれの地区における市民委員会などの市民組織、受け皿となる団体を探していかなければならないという作業があって、ここで表しているように受け皿がなくて難しいという話になってくる。そう言いながらも、今後の行政経費の面からも、指定管理者制度を導入していく道を探っていかなければならないということは今も変わってないので、今後その辺を考えていかなければならないと思っている。
議長	基本目標2について、皆様方からいかがか。
委員	指定管理者制度というのは、仕事はどういうことをするのか。
公民館事業課長	行政がやる行為をそのまま指定管理者が行うということである。今我々がやっている施設の管理、自主事業の運営、各サークルの受付業務含めて、そういう業務を市がやるのではなくて、指定管理者が受託するという制度である。
議長	ほかに、基本目標2についてよろしいか。 それでは基本目標3に進んでいきたいと思う。事務局から説明願う。
事務局	(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価 基本目標3について資料を基に説明)
議長	基本目標3は、様々に社会教育で学習した成果を地域づくりに生かしていくような取り組み、学びと活動とか行動のセットということで、学びを地域づくりに生かしていくということがポイントである。皆さん、いかがか。特段ないのであれば、先に進みたいと思う。 次に基本目標4について事務局から説明願う。
事務局	(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価 基本目標4について資料を基に説明)
議長	皆様、いかがか。

委員	クリスタルホールの自主文化事業については、入場者数及びアンケート調査結果の満足度について、いずれも2年連続で下降しているものと思うが、その原因は何だと考えているか。
文化ホール担当課長	<p>まだ理由を分析し切れてないというのが正直なところである。入場者数、28年から29年、29年から30年とそれぞれ下がっているが、まず28年から29年に下がった理由は、音楽堂を満杯にするような自主文化事業が28年は2つ以上あったが、29年は1つしかなかった。30年については、その状況が変わらず、さらに、29年度に1回の企画で3回講演するようなワークショップをやったが、30年度は行わなかったため、参加者の分母自体が少なくなった。音楽堂を満杯にするような事業がなぜ少なくなってきたかについては、もう少し分析したいと思う。自主文化事業は、前年度の利用者等々からアンケートを取って、それをもとに決めているが、実は30年度の自主文化事業で、前年度のアンケートで1番票を集めて、かなりビッグネームの方がいらっしゃるような企画もあったが、蓋を開けてみると、これが半分くらいしか入らなかった。その原因については、例えば鷹栖のメロディーホールで同じような時期に似たような企画があって、先にやったほうに流れてしまって、後のほうにはなかなかお客さんが来なかったというような外的要因も色々あった。ただ、それだけで説明できるかどうかはまだ分からないので、引き続き今年もアンケートなどを取りながら、分析をして、右肩上がりに持っていきけるよう考えたい。</p> <p>次にアンケートの満足度も下がっているが、実はこちらでも分析し切れていない。音楽堂に一杯お客さんが入って、恐らく満足度が高いのではないと思われる企画で、アンケートの回収率が1割しかなかったという実態がある。お客さんが多かった企画のときのアンケートで、回収数は少ないがその9割以上がとても良かったと回答いただいているものもあるので、恐らくこういうコンサートは満足度が高いと思われるが、そういったもののアンケートを回収し切れてないという状況である。要因としては、混み合っていてアンケートを投函しづらいような雰囲気などもあり得るかと思ってるが、その原因についてもまだ分析し切れていないので、アンケートをもっと回収しやすくする方法も考えたい。そもそも、アンケートだけが全てではないと思うので、ほかの形で色々な意見を聞いて、満足度を高めるような取組をやっていきたいと思うが、その部分もまだこれから研究していきたいと思っている。</p>
委員	アンケートの回収率が低かったのは平成29年にもあるのか。
文化ホール担当課長	平成29年も同様の傾向になっている。例えば、入場者数が460人だったコンサートの回答者が18人で、ほとんど回収できてない状況である。入場者数が少ないコンサートは回収率が高いが、多いものは今お話ししたような傾向がこの2年続いているので、何か対応を考えたいと思っている。
委員	平成29年度でアンケートの回収率が著しく低いものがあったかと思うが、それに対して平成30年度はどのような工夫をしたか。
文化ホール担当課長	具体的にその部分に対して29年度から30年度で変えることはしていない。これから考えたい。
委員	平成31年度でどのような工夫をするかも決めてはいないし、これから考えるということか。
文化ホール担当課長	そうである。しかし、少なくともここ2年間こういう傾向が出ており、アンケートの満足度がどんどん下がっていることが回収率と直接リンクするかはまだわからないが、まず、回収率を上げる中で対応が見えてくればということがあるので、今年度については回収率を上げることを考えている。ただ、具体的な手法はこれから検討したい。
議長	<p>直接この評価とは関係ないが、今、子どもたちが本物の芸術に触れる機会が大切ではないかということが強調されている。そういう点から、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を意識的につくっていくことが良いのではないかと私は思う。ひょっとしたら本物に触れる機会も子どもたちに対してアピールしてるのかもしれないし、私の認識が違えば許していただきたいと思うが、意見として述べさせていただいた。</p> <p>文化芸術活動の充実という点で、ほかに何かないか。</p>
委員	本物に触れる機会がなかなか持てないのは、一般に公開されても家族で見に行く機会が減っていることもあるだろうし、学校としても時間を取って子どもたちを見に連れて行くことがなかなか難しい。しかも、昨今バス代の高騰で子どもたちをどこかに連れて行く場合の家庭への負担が大きくなっている。そういうことから、お話にあったとおり、学校に逆に来てくれるという、アウトリーチ的な取組、そういう形になると学校としては非常に有り難い。

社会教育課長	<p>今おっしゃられたとおり、私どももどうやったら子どもたちが本物の芸術に触れることができるかということは日々考えており、そういう意味では、毎年市内の小学校6年生の子どもたちに劇団四季のミュージカルを鑑賞していただく、子ども劇場をいう事業を文化会館でやっている。これは大変好評で、なかなか本物のミュージカルを子どもたちが見に行く機会がない中、全市の6年生に見ていただくことは非常に有意義なのかなと思っている。去年は特に松浦武四郎のミュージカルも市内の5年生に見ていただいたというもある。何か機会があるごとに実施していきたいと思っている。</p> <p>また、先ほど委員がおっしゃったが、彫刻の学芸員が出向いて出前事業をやったり、博物館や科学館の職員も実際に学校に出向いて事業を行ったりしている。是非そういったものはこれからどんどん利用していただきたいと思うし、バス代が出ない中で来ていただくのは大変ということであれば、気軽に御相談いただければこちらでも対応していきたいと考えている。</p>
議長	<p>ほかに基本目標4についてよろしいか。 それでは基本目標5について事務局から説明願う。</p>
事務局	(旭川市社会教育基本計画 平成30年度 点検・評価 基本目標5について資料を基に説明)
議長	<p>主な取組5-1-2の1、郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実ということで、こういう取組は素晴らしいと思う。いつもお話をさせていただくが、ふるさとを子どもたちが知る、ふるさとの良さ、特色、それから足りないこととか、色々と旭川の特徴を知るということ。そして知るだけではなくて、学んだことをどこかで生かす場面があるといいなと私は思っている。もちろん学校教育では、郷土学習を副読本を使いながらやっているわけだが、学校教育とまた別に、青少年に対してそういうことを取り組んでいったら良いのではないかなと思う。是非、郷土愛を育むための取組という点では、少し今後に向けて力を入れていったら良いのかなと思っていた。意見である。</p>
社会教育課長	<p>社会教育課でもジオパーク推進構想に向けて取り組んでいるが、専門員がいて、旭川を含めて上川の地形がどうなっているのかということ、郷土のことをよく知ってもらうために学校に出向いて授業をやるということも実施している。御相談いただければ、是非活用いただければ、出向いて子どもたちに授業をして、地域のことを深く理解してもらうという活動も行っているのでもよろしくお願したい。</p>
議長	ほかにないか。
委員	<p>主な取組5-1-1の3、博物館の収蔵資料点数について、歴史的な資料が平成29年から平成30年にかけて1,000点も増えるというのはすごいことだと思うが、どうしてこれだけの資料が急に増えたのか教えていただきたい。</p>
博物館長	<p>数字が突出的に増えている理由は、一つは内部的な事情として、作業が遅れていた資料を集中的に片付けたということ。もう一つは御提供があったということである。</p>
委員	提供があったというのはどういう意味か。もう少し詳しく教えてほしい。
博物館長	<p>市民の方から色々とお声がかかる。博物館は非常に多様な資料を収集していて、昭和40～50年頃の生活の道具や、古い物だと明治期の農機具などであるが、市民の方から色々お声がかかる。善し悪しは別にして、まずよく拝見をして、重複しているものもあるので、当館で現在持っているものと状況を比較しながら、収蔵庫にも限りがあるので、その辺をバランス見ながら、これは現段階で貴重なものかと思うものを残す、そういう判断でやっている。</p>
委員	素晴らしいことだと思う。以上である。

議長	<p>これは私の意見であるが、歴史的な古い建造物の保存や郷土芸能の伝承は、第1には市民の主体的な活動や行動によって、物を保存したり、伝統芸能を伝承したりしていきたい。これはやっぱり市民、住んでいる人の責任だと思う。問題は、誰も意識を持って取り組むことができなかつたり、だんだん高齢者になってやめるとなったり、こういうようなことがだんだん出てくると、伝わっていかないし、保存されていかないことになる。よって、私は行政の支えは必要だと思う。消滅してしまってから復活させるというのは大変なことなので、どういう形で行政が支えていくかは別として、市が、こういうものは大切なんだよという認知というか、それはしていくべきだと思う。それによって、一生懸命やっている人の意欲が湧くというかそういうことになっていくと思うので、直接ここには関係ないが、意識的に方向性としては持っていったら良いのではないかなと思う。</p> <p>基本目標5、郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成という部分でほかにはないか。</p> <p>では、5つの基本目標に対してやってきたが、全体を振り返って皆様から御意見があればお願いしたいと思うが、いかがか。</p> <p>ないようなので、点検・評価についてはこれで終わりたいと思う。</p> <p>もう一つ、将来に向けて、冒頭でも少し出たが、様々な市の行政、市の事業もこれまでどおりにはいかないと。当然、人口ビジョンなどを参考にしながら目標値は定めてはあるが、20年間、旭川市は毎年平均3,000人ぐらい人口が減少していく。そういう中であって、評価も、指標も本当に右肩上がりか良いのか、大胆に事業もスクラップすることが必要ではないかとか、右肩下がりの評価というの必要ではないかとか、そういうようなことも切り込んでいかなければいけないと思う。今年来年というわけにはいかないが、中間見直しは2年後の令和3年にはあるので、そこを目がけて、少し大胆な切り込み方をしても良いかなと思いつつ、今年の評価を見せていただいた。事務局の皆さんには分かりやすい資料をつくっていただき、感謝申し上げます。それでは、点検・評価の部分については終わりたいと思う。</p>
----	--

■その他

議長	事務局から何かあれば説明願う。
社会教育課長	(使用料・手数料の見直しについて説明)
公民館事業課長	(地域集会施設の活用に関する実施計画(素案)に係る市民参加手続について説明)
議長	事務局を含めて皆様ほかには何かあるか。それでは今日の会議はこれで終わりたいと思う。